令和３年度人権教育実践事例

勝山市立野向小学校

1　はじめに

本校では、委員会活動の一部として、お知らせ委員会の児童に「どのように人権について全校児童に考えてもらうか」を話し合わせ、人権週間に合わせて集会の企画をさせている。本年度は、「友だちのいのちと自分のいのちを守ろう」と題して、いじめについて問題を投げかけた。また、拉致問題についても、映画「めぐみ」を視聴させて児童に考えさせた。

2　実践

（1）人権集会での取り組み

いじめ、いじめじゃないどっち？

まず、全校児童にあらかじめ 12 の身近な言動について、いじめかそうでないかを考えさせた。(参考資料―尾木ママのいのちの授業②友だちのいのちと自分のいのち―）その上で、次の三つの項目を選び、両方の立場からの意見をお知らせ委員会の児童が代表で発表した。自分の考えなので伝えるときにも実感がこもり、聞いている児童の心にしっかりと伝えることができた。

① なぐりあいのけんかになる。

○…暴力は心と体を傷つけるし、人を巻き込んでいじめに発展するからいじめだと思う。

×…１人対多数でなければけんかだと思う。けんかは仲直りが出来るからいじめではないと思う。

② 似ているタレントの名前やあだ名で呼ぶ。

○…あだ名で呼ばれていやな思いをしたことがある。名前があるんだからちゃんと名前で呼んでほしい。

×…自分はいいよと言ってあだ名で呼んでもらっているからいじめじゃない。

③ 遊びにさそわれたけど断った。

○…「遊ばん。」と言われると、遊びたくないのかと思ってすごく傷つくからいじめだと思う。

×…用事があるならちゃんと理由を言って断ればいじめじゃないと思う。

意見発表の後、いじめかそうでないかは相手の受け取り方によって，または間柄や程度などの状況によって変わることから、相手の立場に立って発言したり行動したりすることの重要さを訴えた。そして、いやな思いをしてときは、いやだと伝えたり、どうしてそのような言動をとったのか、訳を聞いてみたりることを提案した。最後に、いじめは人権を無視した行為であり、命を脅かすことがあることを伝え、「友だちのいのちと自分のいのちを守ろう」と呼びかけた。

集会に参加して考えが変わったのはどの言動ですか？どのように考えが変わりましたか？

集会の後、全校児童にすべての言動についてもう一度考えさせたところ、以下のように考

えが変わったり深まったりした。

・なぐり合いは、始めはいじめだと思っていたけど、仲直りが出来るからいじめじゃないに考えが変わった。

・あだ名で呼ばれていやな気持ちになる人がいたので、気をつけなくてはいけないとわかった。

・友だちがいやがらせをされていたけど巻き込まれたくないので知らない振りをするのは、初めはどちらかわからなかったけど今はいじめだと思う。

・人によっていじめかいじめじゃないか、どう思っているかわからない。だめだと思う加減も違うとわかった。

今後、どのように行動したいと思いましたか。

また、今までの行動を振り返り、今日考えたことをふまえてどう行動していきたいか考えさせたところ、以下のように様々な意見が出た。

・知らぬ間に人を傷つけていることがわかった。

・自分のいじめに対する思い込みをなくしたい。

・友だちと話すときに，悪口や相手が傷つくような言葉じゃないかを考えながら話したい。

・人がいやがることをする人もいるので、これはだめだなと思ったことは「やめたら。」と注意したい。

（2）「めぐみ」視聴の取り組み

全校児童がランチルームに集まる給食中に短縮版を上映した。最近もニュースで話題に上っていたにもかかわらず多くの児童が拉致問題を知らないことに驚いた。「めぐみ」の視聴」の祭に、福井県にも被害者がいることを知らせたところ、少し身近に感じたようだ。低学年は、初めて拉致という言葉を知り、映像からその怖さを体感した。３年生以上の児童に感想を書かせたところ真剣に取り組んでいた。

＜児童の感想から＞

・ある日突然さらわれてかわいそうだと思った。家族と会えないのは悲しいし、ぼくだったら絶対にいやだと思う。

・どれだけ「子どもを返してくれ。」と言っても返してくれないことに悲しくなった。

・新聞やテレビで拉致問題については見たことがあるけど、今日の動画を見て拉致の怖さついて詳しく知ることができた。

3　おわりに

いじめに対する取り組みはこれまでも繰り返されてきたと思うが、今回の取り組みで、児童は自分ではなく相手がどう感じているかを基準に考えなくてはいけないことを理解することができた。そして、日々の具体的な行動について深く考えるきっかけとなり、今後相手の人権を尊重しようとする記述が多く見られた。また、「めぐみ」の視聴によって、世の中には何らかの理由で人権を無視される人がいることを知り、決してあってはいけないことだと感じたのではないだろうか。今後の生活態度に反映されるよう引き続き指導していきたい。